

とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizens Environmental Conference

2002年(平成14年)3月号(通巻第16号)

とよなが市民環境展 2001

子どもと共に・未来へのメッセージ



とよなか市民環境展2001は「子どもと共に・未来へのメッセージ」をキャッチフレーズに、昨年12月1、2日の両日、豊中市民会館で行われ、2日間の参加者は前年より増加し、1,100人でした。

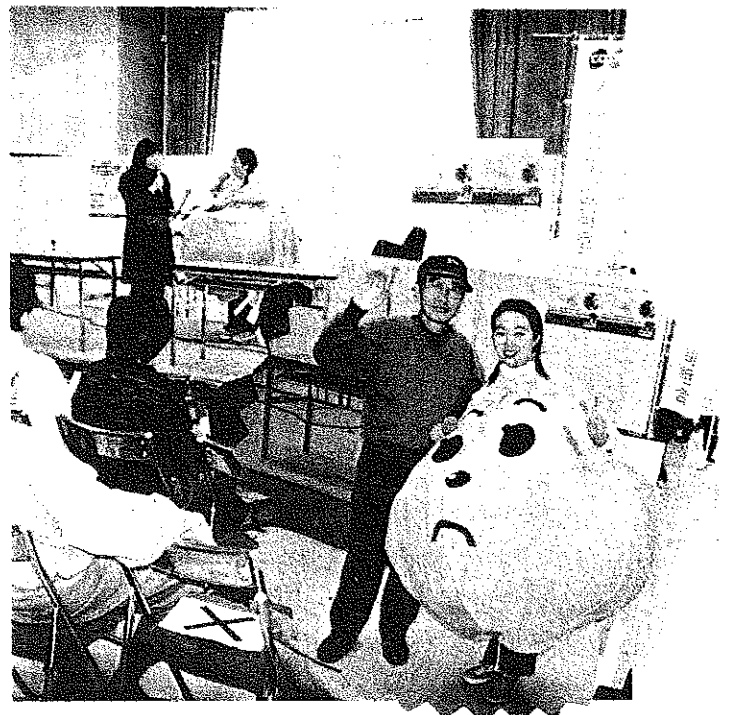
ホールに入るとすぐ右側は小学生からの発信。天井から吊された、10メートルはあるだろう牛乳パックを綴り合わせた巨大なタピストリーが目を引く。阪急バスはディーゼル車の排ガスをクリーンにする大きなドラムを並べている。入口では自然部会が藤やあけ

びのつるでリースを作ったり、フィルムケースの笛で子どもといっしょに即興の演奏をしたり。生活部会は、ブルーシートの上でエコロジーな生活の人生ゲーム、などなど。

1日目には、箕面市と池田市から環境問題で活動する市民を招いて交流会も。2日目の昼には、生ごみ堆肥化プロジェクトがおにぎりを振る舞うなど、これまでの環境展とはひと味違うバラエティーいっぱい取り組みであり、参加者に喜んでいただいた2日間でした。

また、両日に行った環境事業部とクリーンランドのリサイクルの自転車や家具などの抽選会では、進行役がシンボルキャラクターのエコナちゃんの着ぐるみで登場。クイズもあって大いに盛りあがりました。

(奥野)



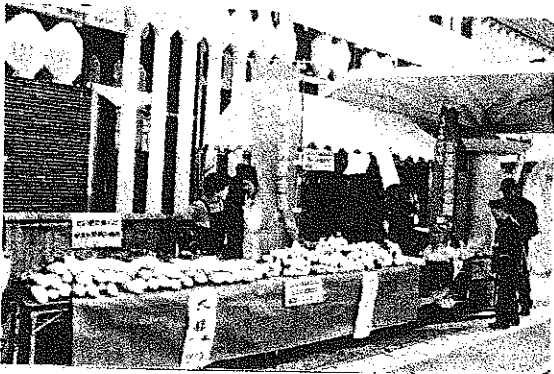
本号のハイライト

- P. 1 とよなか市民環境展開催
- P. 2~3 大根の頒布、リース作り大盛況
- P. 4~5 各部会プロジェクトの活動
- P. 6 参加団体の横顔・刀根山小学校PTA
- P. 7 ひと・人・hito -谷口佳以子さん-

堆肥で育った大根の評判は？

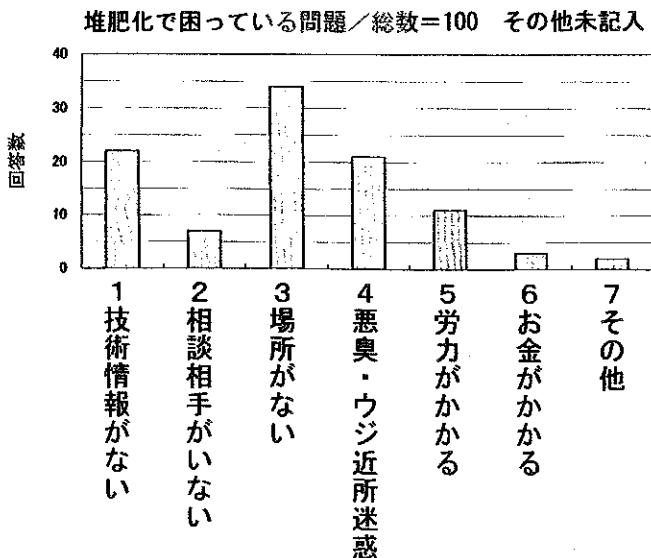
生ごみ堆肥化プロジェクトは学校給食センターの生ごみを堆肥にする実験に取り組んできました。出来た堆肥を使って豊能町や箕面市の農家が野菜を育てています。環境展でいろんな野菜を市民に頒布しました。山のような大根も全部頒布できました。葉っぱも新鮮で、買った人々の評判も上々でした。

生ごみ→堆肥→野菜→食物、の輪がつながりました。



堆肥づくりについてのアンケート

また、環境展で堆肥の無料配布をし、同時に堆肥化についてのアンケートもお願いしました。その中の「堆肥化で困っている問題」はグラフの通りです。1 技術情報、2 相談相手、4 悪臭・ウジ虫は私たちの努力で、かなり解決できそうです。「くらしかん」などで定期的な講習会を開きます。是非お出で下さい。



おいしい試食会に行列

豊中農事研究会の橋本さんから、おいしいお米を1斗(15kg)プレゼントして頂きました。環境展では、「ゆうの会」のメンバーの応援もあり、おにぎりを300個作りました。

おにぎりの試食会は初めての活動でした。行列が出来て試食会場はいっぱいになりました。食べた人は皆、「おいしい」と誉めました。ラップやトレーを使わず、メンバーの自宅の竹の皮を使い、その上に載せました。市民も行政も事業者も皆一緒におにぎりを食べている様子に、「今年の環境展はいつもと違う」という声もあり、うれしく思いました。その上、スタッフが飛び入りで竹笛のバックミュージックを流し、おにぎりのおいしさもひとしおでした。

(浅井)

～学校からのメッセージ～

〇いろいろな角度で環境に目を向けられる子ども達になってほしい。図工では、自然がいかにかに私達をなごませるのか、いかにすばらしいかを感じてもらいたいと思って教材を考えています。

(北条小学校)

〇4年生の社会科で「くらしとごみ」について学習しました。自分たちの生活を見直すところから、考え、調べ始め、自分たちが、物を大切にしていなことに気づいたり、何気なくごみを捨てていたが、分類することの大切さに気づいたり、町が美しく清潔であるために、どのような努力や苦労があるのかなど、考え始めました。

- ・環境事業部の方々に話を聞きました。
- ・新聞を作って自分の調べたことをまとめました。
- ・標語を作って、発表会をしました。
- ・ポスターを描いて自分の思いをアピールしました。

(蛍池小学校)

〇空気をきれいにするためのロボットや、町を緑にするロボットなどを木ざれ工作で表現しました。

(庄内小学校)

自然部会・つるを使ってリースづくり

環境展2001

大盛況だったリースづくり

環境展に来られた人に楽しんでいただくことを考えて今回は、エコホイッスル(笛)とリース作りを考えました。しかし材料集めは大変なことでした。エコホイッスルの方はフィルムのケースとストローですから簡単ですが、リースのつるはそうは行きません。部会員だけで大量に集めることができないため、大阪森林管理局から譲り受けることになり、森ノ宮まで受け取りに行きました。リースに飾る小道具は自然部会の女性軍が半日かかりで集めて、その後染色までして揃えました。運んできたつるは前日まで会場に近い第一中学校のプールに浸けさせていただきました。全体で80kgを超すほどの量です。当日部会員の人達でいくつかの試作品を作りました。また、半既製品の輪も作っておきました。全部作りたい人にはつるから。早く作りたい人には飾り付けだけ。というわけです。

いよいよ開店です。店はすぐお客さんでいっぱいになりました。自分で作る楽しさがあるのでしょう、作っている人達の目も顔も輝いていました。一方エコホ



ィッスル(笛)の方も親子連れなど珍しそうに立ち止まって大久保さんの説明を聞いて作っていきます。フィルムケースで作った笛で1オクターブの音が出せるのですから簡単な曲はふけます。笛を作った人の中に会場のスタッフがいて、この人が昔ブラスバンドをやっていたとかで、とても上手に演奏し客

寄せの効果もありました。

店じまいの時間がきましたが、リースの方はお客さんが残ったままです。時間を延長し無理やりせきたてて店を閉じるほどの大盛況でした。リースは約100個、エコ笛は60個程作られました。(山口)

生活部会・ゲーム de エコロジー

環境展2001

ゲーム de エコロジー

生活部会では、約半年かけて製作した「2002年エコライフカレンダー—豊中の四季と文化を訪ねて—(環境家計簿)」の展示・配布とモニター募集、また豊中市立小学校全4年生とその保護者を対象におこなった「買物袋持参運動についてのアンケート」の集計結果を展示し、誰でもすぐ行動できることを提案しました。また新たな試みとして、来場した人が参加し

て一緒に環境問題を考えてみましょうと呼びかける2つのコーナーを作りました。それが「ゲーム de エコロジー」と「トイレットペーパー大研究」です。前者は主に子どもを対象に、子どもが好きなゲーム感覚で環境について考えていただくとうと作ったもの。ブルーシートに20枚の問題を置き、スタートから一つずつ問題を読み、YESかNOの矢印に進む、ゴールは4段階に分かれ環境行動を評価します。子ども達に混じり大人の参加もあり、笑顔のあふれたコーナーになりました。

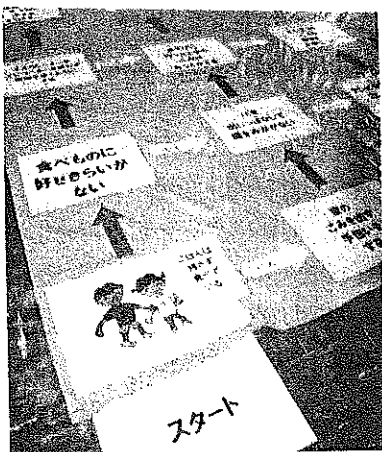
*ゲーム de エコロジーの貸し出し受け付けます

世界各国のトイレットペーパー展示しました

「トイレットペーパー大研究」では、漂白した白い紙と無漂白のどちらを使うかシールを貼って答えていただきました。結果はさすがと言おうか、無漂白と答える人が多いが、スーパーでは、純パルプで白い紙の方がよく売れると聞きます。白さへのこだわりを捨てられる人集まれ!と呼びかけたいのですが・・・。(新開)

*エコライフカレンダー残部少々あります

ご希望の方は事務局まで・モニター募集中です!



産業部会・環境活動アンケート

環境活動アンケート

市内企業及び事業所の皆様に役に立つ活動を行っていくための基礎資料としたいということで、市内の事業者の環境問題への取り組み状況や問題点、要望事項などについてアンケート調査を実施しました。アンケートを送った先は約400社、回答は99社で、回収率は4分の1でした。

●ごみの排出を減らす工夫をされていますか？

ごみを減らす工夫は分別をするというのがほとんどで、使い捨て容器の削減、紙使用量の削減もありましたが、購入時での工夫は少ないものでした。

●ごみを処分する場合に、困っていることその理由？

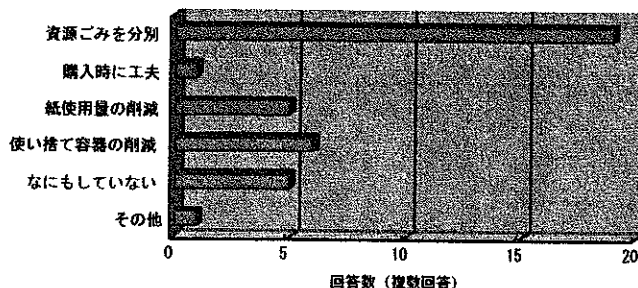
ごみの処理に悩んでいることを聞きましたが、コストが高くなっていること、分別するための置き場所がないこと、分別が経費削減にならないこと、処分先が見つからないことなど、困っている様子がわかりました。

●グリーン購入に取り組んでおられますか。

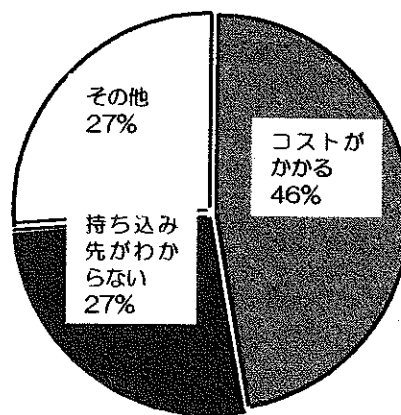
自社で使用する物品の購入の際に、環境に配慮してつくられた物品を選んで購入することをグリーン購入といいます。これに対して、資材の調達等、製品の部品や材料として使われる物品や顧客へのサービスの提供に使われる物品の調達を上記の配慮をしながら行うことをグリーン調達といいます。このグリーン調達やグリーン購入に取り組んでいる事業者は予想より多いものでした。これから取り組みたいという事業者も多く、取り組みの強化の必要性があります。

その他、ISOに取り組みたいという事業者も70社あまりあり、産業部会として積極的な連携が必要ながわかりました。
(富田)

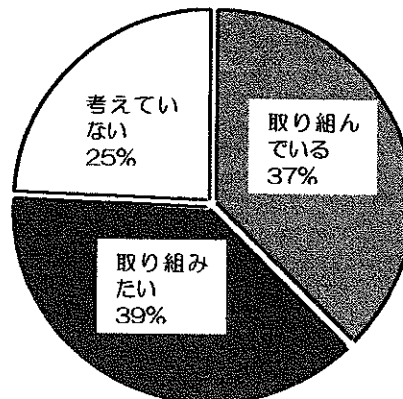
ごみを減らすための工夫



リサイクルで困っていること



グリーン購入への取り組み



環境展出展団体の紹介

大阪ガス(株)北東部事業本部、大阪北生活協同組合、ガールスカウトとよなか地区協議会、大阪大学生協同組合環境資源委員会、関西電力(株)三国営業所、シチズンホームライフ協会、タカミネ産業(株)、土佐産商(株)、豊中市管工事協同組合、豊中市教職員組合、とよなか消費者協会、豊中南郵便局、西日本衛材(株)、阪急バス(株)、ボーイスカウト豊中地区、(学校法人)箕面自由学園、自然部会、生活部会、交通部会、産業部会、生ごみ堆肥化プロジェクト、竹炭プロジェクト、企画屋本舗、野畑図書館、公園緑地課、環境事業総務課、環境企画課、豊中市伊丹市クリーンランド、豊中市青少年野外活動センター、少年自然の家、克明小学校、蛭池小学校、庄内小学校、泉丘小学校、東豊台小学校、北条小学校、第四中学校、第十三中学校、刀根山小学校PTA

交通部会・「ダイハツ」見学会



「ダイハツ」工場とエコステーション見学

エコステーションって知っていますか？

天然ガスを供給するガススタンドのことです。天然ガス車は、ガソリン車に比べて二酸化炭素の排出やタール分の排出が少ない低公害車です。しかし、ガスを供給するスタンドが少ないことがネックになってあまり進んでいません。豊中ではまだ実現していません。

天然ガス車の生産を行っている池田市のダイハツ工場がエコステーションを開設したということを知り、工場見学を兼ねて見学会を行いました。171号線沿いに建設されたエコステーションの外観は普通のガソリンスタンドと変わりませんが、都市ガスを200気圧の高圧に加圧して地下のタンク

に収めているので、自動車との接続は特殊なコネクターでカチッととり付けられます。器具の取り付け取り外しが異なるだけで、あとは普通のガソリンスタンドと変わりません。ガスは地下のガス管で供給されるし、油污れもなく、きれいな印象でした。採算性のためには、200台くらいの車が基地として使ってくれるようになることが必要だということです。

早く豊中につくらないと、「豊中のお客さんを池田のエコステーションにとられてしまうのではないか」というつぶやきが出ていました。（富田）

生ごみ堆肥化プロジェクト・花いっぱい運動

柴原公園傾斜地の花壇づくりは筋金入り



柴原公園は昔は近くの人に親しまれていた丘でした。今は公園として登録されています。地形が傾斜しているので、表土流出が激しく荒れていました。地元の人々が水仙を植えて水仙公園にして、皆が寄れる公園にしようということになりました。生ごみ堆肥化プロジェクトとしては、堆肥を提供し、地元の方と裸の斜面にプラスチックの廃材で、土留めをしました。11月24日は天気に恵まれ、地元の方と生ごみ堆肥化グループのメンバーが集まり、一緒に整地作業をしました。5坪ほどの土地の中と周辺で作業をしました。

誰が細かな指示をするわけでもなく、それぞれが、クワを振るう人、スコップで掘り返す人、根や草を選り分ける人、小石を拾い集める人と自分でできることを見つけて働きました。このような労働は独りですれば苦役ですが、みんなでやれば楽しみに変わります。

一汗も二汗もかいた頃に、ジュースが配られてのどをうるおしました。豊中市には、整備が充分でない公園、花がなくて寂しいちょっとした空地がありますが、そのような土地を花でいっぱいになりたいものです。それが生ごみ堆肥化プロジェクトの「花いっぱい運動」です。（浅井）

4月から豊中市が生ごみ堆肥化事業を始めるので、生ごみ堆肥化実験プロジェクトも名称を変えるつもりです。

今後も市とともに生ごみのリサイクルを推進し、その運動を通じて町づくり・人づくりの輪を広げたいと思っています。

刀根山小学校ビオトープづくり

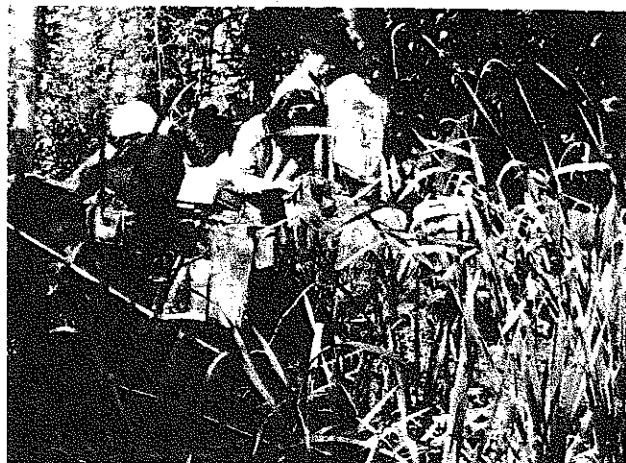
「かつて豊かな里山だった刀根山地区の原風景の再現」をテーマに、PTA主導で刀根山小学校に作られたビオトープ「刀根山小生き物の里」は、2001年3月に第一段階の池が完成。その後1年が過ぎようとしている。今年3月発行の報告書の編集で忙しい刀根山小PTA室を訪ね、「刀根山小生き物の里」委員長の真田南夫さんのお話をうかがった。



ビオトープは学級庭園だった校舎北側の斜面に作られた。昔、環境教育に熱心な先生が野鳥を呼ぶために植えた無花果（いちじく）、柿などを生かし、蝶を呼ぶキンカンやカリン、甲虫を呼ぶシラカシ、コナラなどを植えた。斜面を利用した滝、水車などは児童のアイデア。建設費はPTAが援助、PTA会員の造園業者が重機で池を掘る。池作りには全校児童と教師が参加。低学年の児童は堅い土に悩まされての土掘り、高学年の児童は池の底に敷くシートをおさえる土嚢（どのう）作りや土嚢運びなどで、がんばった。

池に阪大池から採取したヌマエビ、児童がプールから救出したヤゴ、クロメダカやドジョウなどを放流。夏の池の周りには蝶やトンボ、ヒョドリやキジバトもやってきた。

亀、ブラックバス、金魚など、池の虫や小魚を食べつくす生物を放流しないように、看板や「ビオトープ通信」で注意を呼びかけ、児童のビオトープ委員会が休み時間に池を監視するなどの厳重な体制で、今のところ池の生態系を乱す生物は持ち込まれていない。



授業では理科、生活科、総合科でビオトープを使うことを検討中だが、プールのヤゴ採取や観察会で児童が生物に興味を持ちはじめたのはいい傾向だという。いずれは池の水を利用した水田作りや、「蛍池」の地名の由来であるホタルの飼育をしたいと夢は広がる。

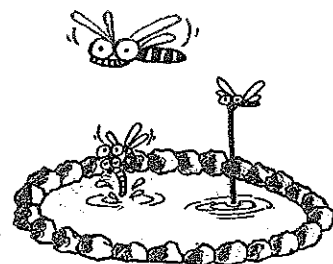
ビオトープに案内していただいた。強い北風が裸になった木々を揺らす。池の中は魚や虫の姿もなくひっそりしている。PTAの人達が排水口が詰まらないように、冷たい池に浮いた落ち葉やビニール袋を素手で拾ったり、滝の流れで露出した土嚢を埋めなおす相談をしたりしているのを見て、PTAのビオトープへの熱意を強く感じた。

池の水草の間引きや樹木の剪定など、現在はPTA中心のビオトープの管理を、どんな形で学校中心にしているか、今は観察会だけの地域との関わりをどう広げていくか、教師やPTA会員の異動などで運営が途絶えないように、いかに引き継ぐか……課題は多いが、「刀根山小生き物の里」委員会の熱意は、これらの問題をすべて解決していくと思う。

(小南)

豊中市内の学校でつくられたビオトープ

- ・千成小学校
- ・第十五中学校
- ・北丘小学校
- ・刀根山小学校



たにぐちけいこ
ひと・人・hito 谷口佳以子さん(とよなが消費者協会会長)

このコーナーでは、地域や家庭など身近なところで環境に取り組んでいる人を紹介しています。

多忙な中に温かさといく帳面さを併せもつ

その日は朝からくらしかんで役員会があり、午後には皆でパネル作りに取り組んでいました。その合間のインタビューです。「作業が終わったら鍵をお願いね」と頼みつつ、私といっしょに部屋を出ました。わずかなことばの端々に消費者協会役員の間にある密度の濃い仲間同士の関係が感じられます。



谷口佳以子さんは、去年からとよなが消費者協会会長、廃棄物減量等推進協議会委員を努めています。インタビューを申し入れたとき「私よりもっと全体を知っている役員がいるから」と一瞬ためらいつつも、気軽に応じてくれました。そのフ

ランクな人ざわりは、会って話を聞いていていよいよ確かなものになってきました。

消費者協会のスタートは1975年ですが、谷口さんも創立から間もなくの参加。それからほぼ27年。初めは物価調査が中心の活動でしたからほとんどのメンバーが計算に強い人や、記録したりするときの緻密な神経の持ち主だっただろうと思うのは筆者の勝手な想像。谷口さんに几帳面そうな一面があるのもうなずけます。

今は、物価調査だけでなく、牛乳パック・トレー、そしてペットボトル回収などを手分けして定期的にこなし、その他にも毎月10日を超える色々な活動が日程表を埋めています。

恐らくすべての行事に出席するのは無理でしょう。でもそんな忙しい活動を皆でうまく分担し合い、集まると和気あいあいの空気に包まれているかに見えます。以前にも役員会に寄せてもらい、アットホームで心地よいものがありました。谷口さんの人柄と不思議に重なります。

谷口さんはそんな多忙な中で時間をつくり海外旅行をし、それを絵に描いたりする趣味の人。楽しい取材のひとつときでした。(奥野)

環境展

～豊能3市・環境市民活動交流会～

環境展では、エコスタッフ(池田市環境問題市民会議)／みのおアジェンダ21の会／箕面市快適環境づくり市民会議など、市民活動の交流会を行いました。

司会は荒井道子さん。参加者、30名。

河野さんの挨拶で始まり、各会の活動報告に続き、高島さんの生ごみ堆肥化プロジェクト、エコスタッフの自動販売機分布調査、箕面の量販店調査の報告があった。パートナーシップ運動のきっかけ、良かったこと、うまくゆかなかったこと、活動の中で得られたことなどについて意見交換を行い、最後に近畿大学・久助教授にしめくくっていただいた。(畠田)

「地球環境問題への取り組みは、いろんな所で、市民、事業者、行政のパートナーシップの構築を促し、



それぞれに試行錯誤をしてきた。個々に行ってきた試行錯誤を、交流する事で新しい発展へ向かえるのではないか。気軽に経験や悩みを出し合い、更に次回へ繋がれば幸いた。」(荒井M談)

創作民話「マチカネワニ古紙回収する」

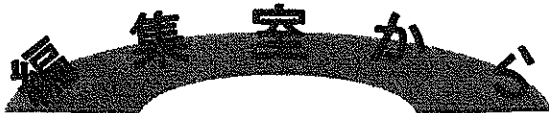
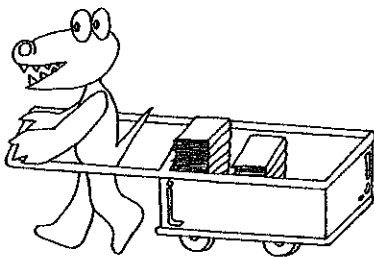
翌日、ワニは会社で不用紙をシュレッダーしてから、その場で再生してみせました。会社の人には、大いにひんしゆくをかいました。

部長や課長が何やらひそひそ話し合った後、ワニにこう言いました。

「衛生上、好ましくないので、今日を持って退職して下さい。」

しかしワニは嘆きません。紙を食べた時、大昔の思い出が蘇ったのは心強い体験だったからです。

しばらくして町に古紙回収ワニがやって来るようになりました。古紙を渡すと、ワニは必ずそれを食べました。そしてその紙の古い話をしました。石油になる前、その土や草や虫が地上のどこにいて、どんなことをしていたか話しました。どんなにおいかも話しました。皆は、ワニが紙を食べてどうするのか知りませんでした。たまに子どもが古紙を持ってくると、ワニはおどけて再生化を実演して見せました。喜び子もいました。(つづく) (三宅)



年明けからすぐに新しい年度の計画づくりが始まる。ワーキンググループでは、1年余り前から懸案になっていたワーキンググループの規約づくりがほぼまとまり、市民環境会議の会則の一部改正と同時期に最終確定する予定で動いている。何よりも行政とのパートナーシップを確かなものにするよう、おたがいの立場を尊重しつつも、しっかりとした方針をもって協働の運動を再構築する時期に来ていると思う。とよなかアジェンダ21も発表して3年、議論を始めた頃からはもうすぐ5年になる。アジェンダ見直しの声も聞こえて来るが、新たな運動結集の季節到来が感じられる昨今である。(Z)

《広報チーム》 Z奥野、H山口、M荒井、Y小南、T浅井、N富田、E三宅、A亀村、P大村

ワーキンググループが規約設定と名称変更へ

市民環境会議ワーキンググループでは、2月27日に総会を開き出席者全員一致で組織の変更を決めた。

最終的な規約の実施は6月予定の市民環境会議総会での会則の変更以降とし、組織名称は「豊中アジェンダ21推進会」(仮称)とし、これまでの活動をより活発化し円滑に進め得るよう、再発足することになっている。

今後のスケジュール

主催の「取組」講演会

- 日 時 3月28日(木)午後3時～5時
- 場 所 すてっぷホール
- 内 容 食品リサイクルと循環型社会に向けて
- 講 師 内藤正明(京都大学教授)

よなかと市民環境会議

- 日 時 6月中旬
- 場 所 豊中市立市民会館
- 内 容 平成13年度の活動報告など

*詳しくは「広報とよなか」をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

- 自然部会 毎月第2月曜日 18時～
- 生活部会 毎月第3土曜日 13時30分～
- ワキググループ 毎月第4水曜日 19時～

◎交通、産業部会は、随時会議等を行っています。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

[活動報告]

12月6日(木)

京都府城陽市環境市民懇話会委員行政視察

内 容：とよなか市民環境会議の取組み一事例
生ごみ堆肥化施設見学

出席者：河野、宮田、新開、山口、上田、高島、富田

発 行：とよなか市民環境会議

編集責任：奥野 享

事務局：豊中市生活環境部環境企画課内

〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1

TEL：06(6858)2106 FAX：06(6842)2802

Eメール kankyooki@city.toyonaka.osaka.jp

★とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政の

パートナーシップ組織です